

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 21 年 6 月 25 日

氏名： 河野 長

所属 (職名): 東京工業大学グローバルエッジ研究院 特任教授

会議名	第 8 回 IODP 科学諮問組織執行委員会 (SASEC)
期間 (移動を含む)	平成 21 年 6 月 15 日 ~ 平成 21 年 6 月 16 日
用務地 (国・都市)	アメリカ合衆国 ワシントン市
目的	SASEC は科学諮問組織 (SAS) の執行委員会として、科学者コミュニティを代表して今後の IODP の運営について、様々な点から検討する委員会である。IODP Annual Program Plan を審議し承認する、長期的な方針の検討と評価を実施する、他の地球科学計画と連携をとる、ことが主な任務となっているが、現在では 2013 年の計画更新が迫っているため、これに向けた審議や活動委員会の活動で重要となっている。
会議内容及び報告事項	
<p>6 月 14 日 (日) 東京発 ワシントン着 6 月 15 日 (月) SASEC 6 月 16 日 (火) SASEC 6 月 17 日 (水) IODP-Day 6 月 18 日 (木) IWG+ 6 月 19 日 (金) IWG+ 6 月 20 日 (土) ワシントン発 6 月 21 日 (日) 東京着</p> <p>以下 SASEC の審議内容のうち重要なものを議題の順に沿って報告する。</p> <p>(1) Funding agency reports, 10 reports アメリカ (NSF, USIO) からは、JOIDES Resolution 号が順調に運行されており、赤道太平洋古環境 (PEAT) 航海が成功裏に完了したことが報告された。日本 (MEXT, JAMSTEC) からは、ちきゅうの修理の完了と、NanTroSEIZE の第 2 ステージ航海が現在進行中であると報告された。ヨーロッパ (ECORD, ESO) からは、第 313 航海 (ニュージャージー) が進行中であり、さらに第 325 航海 (グレートバリアリーフ) についても、今秋の実施に向けて順調に準備が進んでいると報告された。3 つのプラットフォームが同時に掘削航海を実施するのは、DSDP 以来の 40 年以上の歴史でも初めてのことであり、大変意義深い。</p> <p>(2) Report from IODP-MI, Annual Program Plan 最近の IODP-MI の動向でもっとも重要な事項は、末廣潔氏が Manik Talwani の後任に選出され、6 月から IODP-MI 代表としての活動を始めたことである。末廣代表は SASEC に対し、IODP-MI が現在直面している問題や、海洋掘削の今後の方向性などについての考えを述べた。現在の問題としてはワシントンと札幌のオフィスの統合があるが、これについては 12 月末で東京へすべてを移す方向で現在作業が進められているとのことであった。また、より長期的な問題としては、今回はじめて 3 つの掘削船が同時に動くという素晴らしい状況が実現されたが、今後の見通しとしては JR もちきゅうも通年の運航を可能にするほどの予算獲得は難しく、産業界や各国政府などからの IODP 外の資金による運航も考えざるを得ず、現在は進むべき方向の大きな分岐点に差し掛かっている、という認識を示した。</p> <p>2010 会計年度の Annual Program Plan はこの会議の 2 日前にやっと配布されたが、委員の間には特に問題にすべきところはないという認識が優勢であった。さらに末廣代表から今後の方針が</p>	

明確に示されたこともあって、満場一致で APP の承認を決定し BoG へ送付することにした。Hans Christian Larsen 副代表からは、2010 年度に予定されている掘削航海についての報告があった。

(3) INVEST meeting planning

今年 9 月に開かれる INVEST シンポジウムについては、運営委員会の努力により、順調に準備が進んでいると報告された。SASEC は基調講演者や分科会 (break-out sessions) のリストを検討した結果、新計画でどのような技術的な進展が考えられるかについての講演が必要だという結論になり、Greg Myers を基調講演者に追加することを運営委員会に提案した。また、シンポジウムの現在のホームページにわかりにくい点があるので、改善を求めることも決定した。

(4) Workshops and thematic reviews

今年は INVEST シンポジウムがあるためワークショップの予定はない。テーマ別レビューについては、第 2 回 (海洋地殻構造とその形成) の報告書が提出され、第 3 回 (深海底生物圏と海底下の水の問題) は INVEST の直前にブレーメンでの開催が予定されている。これまで ISP にあげられた科学目標のうち、実際の航海が行われて成果が出たものについてはこれで一巡したので、テーマ別レビューは 1 年休むことにした。次回のレビューは地震発生帯について、2011 年実施が有力である。

(5) Evaluation of current BoG/SASEC/SPC structure

この件は前回の委員会において検討が必要であるとの結論になり、問題点を明確にするために Hayes, Wefer, Kawahata による小委員会を設けていた。小委員会からは、SASEC を廃止し、その代わりに Long-range planning and review だけをする委員会を置く案が提示された。SASEC はこれをもとに議論を行ったが、新計画までこのような変更をすることは無理であるという結論になり、当面現在の組織構造を維持することを決定した。その理由は (1) BoG は法人の理事会、SASEC は科学組織の執行機関、という異なった役割を持つ組織として MoU などで規定されているので廃止できない、(2) SASEC を廃止しても、別の委員会を新たに作るのでは実効的な組織改革にならない、というものである。

(6) Program renewal

INVEST シンポジウムの後、次期の科学計画書の作成や、科学計画及び IODP の実績の外部評価など、計画更新に向けて必要とされる各種の活動についてのスケジュールが議論された。科学計画書の作成に当たるグループは、これまでに INVEST 運営委員会から 3 名の委員を依頼しているが、さらに 10 名程度の委員を推薦する作業を進めることにした。この作業は、Raymo, Arndt, Becker, Kato の 4 名のグループが中心となり、可能な限り他の SASEC 委員の参加を得て、INVEST 直後にブレーメンで案を作り、そのうえで 10 月にメールで投票を行う予定である。

新計画での掘削提案の扱い方について、前回指名された Becker, Arndt, Tatsumi の小委員会が検討した結果について中間報告をした。これは、これまでのような毎年提案を募るほかに、数年以上の期間をかけて大きな掘削計画を練り上げるやり方も必要であることを述べている。最終的な結論は次回委員会で議論することになった。

新計画に向けて他の IODP 組織で行われている活動については、Batiza から International Working Group Plus (IWG+) について、Taylor から Board of Governors についての報告があった。

備考

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等

この報告書をJ-DESCその他で公開することに異議ありません。